

# 9月1日は「防災の日」

～自らできる防災対策～

詳細 危機管理室 ☎(32)6280

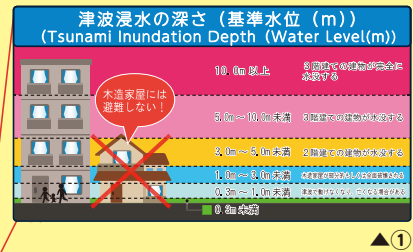
## 知っていますか?津波ハザードマップの活用方法

市では令和5年5月末に津波ハザードマップを全戸配布しました。浸水の可能性や万が一の際の避難経路、避難場所をいま一度確認しましょう。

想定する津波は、三陸沖北部を震源地とするマグニチュード9.1の地震が起きた場合のもので、発生の可能性は極めて低いものの、仮に発生すれば被害が甚大になるとされています。ハザードマップを活用し、もしもの時に備えましょう。



### ハザードマップの見方



### ハザードマップの使い方

浸水域を意識して、実践!

**STEP 1**

自宅の位置に印をつけましょう。

**STEP 2**

避難先に印をつけましょう。

**STEP 3**

危険箇所を避け、避難経路を設定しましょう。

**STEP 4**

避難経路を歩き、安全であるか確かめ、話し合きましょう。

### ポイント

- ① 浸水の深さを6段階で表示  
例) 水色のエリアは1階が水没する  
黄色のエリアは2階が水没する  
ピンク色のエリアは3階まで水没するなど
- ② 推奨される避難経路を緑線で表示



津波からは、より遠く、より高い場所へ避難しましょう

津波ハザードマップ  
(17種類)はこちら

## 災害を見越した準備!

9月1日は防災の日。1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災が由来です。

市では「苫小牧市防災アセスメント」(平成8年)に基づき、備蓄物資交付対象者を10,000人として整備しています。救援物資などを一時保管する「**集中型防災備蓄倉庫**」、避難所運営初期から必要とされる備蓄品を保管する「**分散型防災備蓄倉庫**」(令和5年7月時点で小・中学校など市内44カ所)に備蓄しています。

しかし、北海道が津波浸水想定(令和3年7月)と市町村別被害想定(令和4年7月)を公表した結果、市では約62,000人の避難者が見込まれることになりました。

市の「**行政備蓄**」のみでは対応が困難です。そのため、市民の皆さんが家庭内で行う「**家庭内備蓄**」も大事になってきます。

9月1日防災の日をきっかけに備蓄品について考えましょう。

避難所における  
備蓄品リストはこちら



### 集中型防災備蓄倉庫

### 分散型防災備蓄倉庫

